

進級と卒業の要件

1. 進級要件

原則として以下の要件を満たした場合、上級年次へ進級します。

- ① 必要な学費およびその他の費用を指定期日までに納入していること。
- ② 同一学年に合算して12ヵ月以上在学していること。ただし、休学期間は在学期間に含まれません。
- ③ 当該年度の全履修登録科目の合計単位の60%以上を修得していること。

2. 留年（原級留置）について

修得単位が、その年度の全履修登録科目の合計単位の60%を下回った場合は原則として留年（原級留置）となり、同一学年をやり直すこととなります。未修得の科目について再履修をし、年度末に再度進級判定を受けることとなります。なお、本学への在籍期間は8年を超えることはできません。進級できずに8年を超える場合は除籍となります。

3. 卒業要件と認定

卒業要件

- ① 卒業するために必要な単位数（卒業要件単位数）を修得していること。
- ② 「卒業研究制作」（4年次配当）を修得していること。
- ③ 合計4年以上（8年以内）在学していること（編入生は一部免除）。
- ④ 再履修費用その他の費用の全額を完納していること。
- ⑤ 卒業判定時に休学していないこと。

上記の卒業要件を満たした学生には、教授会の意見を聴いたうえで、学長が卒業を認定します。

4. 卒業要件単位数

(1) 情報工学科

科目区分		必修/選択	単位数
基礎科目	グローバルコミュニケーション科目	必修	11.0単位
	コミュニケーションスキル科目	必修	1.0単位
	倫理科目	必修	2.0単位
	基盤科目	必修	6.0単位
職業専門科目	実習科目	必修	26.0単位
		選択必修	8.0単位以上
	講義・演習科目	必修	36.5単位
		選択必修	9.0単位以上
展開科目	必修	20.5単位	
総合科目	必修	4.0単位	

※本学は単位制を採用し、124単位以上を修得することを卒業要件とします。

※実習の選択必修科目で選択した科目群と、講義・演習科目で選択した科目群は同一でなくてはなりません。

※A～C群それぞれに、必ず単位を取得すべき科目として「コースコア科目」を設定します。コースコア科目が未履修の場合、卒業要件を満たしません。

(2) デジタルエンタテインメント学科

科目区分		必修/選択	単位数
基礎科目	グローバルコミュニケーション科目	必修	11.0単位
	コミュニケーションスキル科目	必修	1.0単位
	倫理科目	必修	2.0単位
	基盤科目	必修	6.0単位
職業専門科目	実習科目	必修	29.0単位
		選択必修	5.0単位以上
	講義・演習科目	必修	39.0単位
		選択必修	8.5単位以上
展開科目		必修	20.5単位
総合科目		必修	4.0単位

※本学は単位制を採用し、124単位以上を修得することを卒業要件とします。

※実習の選択必修科目で選択した科目群と、講義・演習科目で選択した科目群は同一でなくてはなりません。

※A, B群それぞれに、必ず単位を取得すべき科目として「コースコア科目」を設定します。コースコア科目が未履修の場合、卒業要件を満たしません。

③国家資格別科（1年制）

科目区分	必修/選択	単位数
専門科目	必修	30単位
	選択	6単位

※本学は単位制を採用し、30単位以上を修得することを修了要件とします。

5. コースごとの選択必修科目とその単位数

(1) 情報工学科

AI戦略コースの選択必修科目

■AI戦略コース 実習科目（★はコースコア科目）

科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	条件
人工知能システム開発 ★	2前	2	実習	全科目の単位修得が必要。
メディア情報処理実習 ★	2後	1	実習	
人工知能システム開発Ⅱ ★	3前	3	実習	
人工知能応用 ★	3後	2	実習	

■AI戦略コース 講義・演習科目（★はコースコア科目）

科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	条件
人工知能基礎	2前	1.5	講義・演習	左記より9単位以上修得。 コースコア科目は全科目必ず単位を修得しなくてはならない。
自然言語処理	2前	1.5	講義・演習	
人工知能数学	2前	1.5	講義・演習	
機械学習 ★	2後	2	演習	
深層学習 ★	3前	2	演習	
画像・音声認識 ★	3前	2	演習	
Pythonプログラミング	1後	1.5	講義・演習	
データ解析 ★	3前	1.5	講義・演習	

IoTシステムコースの選択必修科目

■IoTシステムコース 実習科目 (★はコースコア科目)

科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	条件
IoTシステム開発 I ★	2前	3	実習	全科目の単位修得が必要。
IoTシステム開発 II ★	3前	3	実習	
IoTサービスデザイン ★	3後	2	実習	

■IoTシステムコース 講義・演習科目 (★はコースコア科目)

科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	条件
デバイス・ネットワーク ★	2後	1.5	講義・演習	左記より9単位以上修得。 コースコア科目は全科目必ず単位を修得しなくてはならない。
IoTデバイスプログラミング I	2後	1	演習	
IoTデバイスプログラミング II	2後	1	演習	
サーバ・ネットワーク ★	3前	1.5	講義・演習	
IoTデバイスプログラミング III ★	3前	2	演習	
Pythonプログラミング	1後	1.5	講義・演習	
データ解析 ★	3前	1.5	講義・演習	
制御工学基礎	2前	2	講義	
センサ・アクチュエータ	2前	2	講義	

ロボット開発コースの選択必修科目

■ロボット開発コース 実習科目 (★はコースコア科目)

科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	条件
組込みシステム制御実習 ★	2前	3	実習	全科目の単位修得が必要。
自動制御機械開発実習 ★	3前	3	実習	
産業用ロボット実習 ★	3後	2	実習	

■ロボット開発コース 講義・演習科目 (★はコースコア科目)

科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	条件
力学	1後	2	講義	左記より9単位以上修得。 コースコア科目は全科目必ず単位を修得しなくてはならない。
材料力学・材料工学	2後	2	講義	
機械設計 ★	2後	2	演習	
ロボット機構 ★	3前	2	演習	
ロボット制御 ★	3前	2	演習	
制御工学基礎	2前	2	講義	
センサ・アクチュエータ	2前	2	講義	

(2) デジタルエンタテインメント学科

ゲームプロデュースコースの選択必修科目

■ゲームプロデュースコース 実習科目 (★はコースコア科目)

科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	条件
ゲーム制作技術総合実習 I ★	2前	3	実習	全科目の単位修得が必要。
ゲーム制作技術総合実習 II ★	2後	2	実習	

■ゲームプロデュースコース 講義・演習科目 (★はコースコア科目。☆は準コースコア科目)

科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	条件
ゲームプログラム構成基礎 II	1後	1.5	講義・演習	左記より6.5単位以上修得。 コースコア科目は全科目必ず単位を修得しなくてはならない。 プログラマー系志望者は☆1の科目を全科目必ず単位を修得しなくてはならない。 プランナー系志望者は☆2の科目を全科目必ず単位を修得しなくてはならない。
ゲーム構成論 II	1後	1.5	講義・演習	
ゲームプログラム構成基礎 III	2前	3	講義・演習	
ゲームプログラミング I ☆1	2後	1.5	講義・演習	
ゲームデザイン実践演習 ☆2	2後	1	演習	
ゲームプログラミング II ☆1	3前	1.5	講義・演習	
ゲームプログラミング III	3後	1	演習	
ゲームAI II ★	3後	3	講義・演習	
インターフェースデザイン	3前	1	演習	
ゲームハード概論 ☆2	3前	1.5	講義・演習	

CGアニメーションコースの選択必修科目

■CGアニメーションコース 実習科目 (★はコースコア科目)

科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	条件
CGアニメーション総合実習 I ★	2前	3	実習	全科目の単位修得が必要。
CGアニメーション総合実習 II ★	2後	2	実習	

■CGアニメーションコース 講義・演習科目 (★はコースコア科目)

科目の名称	配当年次	単位数	授業形態	条件
デジタル映像表現技法基礎	1後	1.5	講義・演習	左記より6.5単位以上修得。 コースコア科目は全科目必ず単位を修得しなくてはならない。
デジタル映像表現技法応用	2前	3	講義・演習	
デジタルキャラクタ実践演習 ★	2後	3	講義・演習	
CGアニメーション総合演習 ★	3後	1	演習	
インターフェースデザイン	3前	1	演習	
ゲームハード概論	3前	1.5	講義・演習	

単位の認定と成績評価基準

1. 単位の認定

科目担当教員が期末に評価を行い、以下の条件をすべて満たした場合、その授業科目について定められた単位数が与えられます。

- ① 成績評価で60点（評価C）以上の評価を得たとき
- ② 出席率 80%以上
- ③ 課題認定率 80%以上

2. 成績評価

成績評価は期末に科目担当教員が科目ごとにシラバスで定められた方法により評価を行います。

評価方法	科目により異なります。シラバスに記載していますので確認してください。		
成績評価	成績評価はS、A、B、C、D、Rによって以下の表の通り評価されます。 (C以上は単位修得、D、Rは単位修得できません)		
	評価	評定	合否
	S (秀)	90~100	合格
	A (優)	80~89	
	B (良)	70~79	
	C (可)	60~69	
	D (不可)	0~59	不合格
	R	—	保留
	※出席率または課題認定率80%未満の場合はその時点で成績評価はDとなります。		
評価Dの場合	<ol style="list-style-type: none"> ① 不合格となります。 ② 卒業要件に含まれている科目については次年度以降に再履修して単位を修得する必要があります。再履修科目を受講する場合には別途、再履修費用を支払う必要が生じます。 ③ 出席率および課題認定率が80%以上であっても、シラバスの評価基準を満たさない場合、D評価となるケースも生じます。 ④ 再履修時の最高成績はA（優）となります。 		
評価Rの場合	<ol style="list-style-type: none"> ① 合否保留となります。 ② 卒業要件に含まれている科目については次年度以降に再度本試験を受験するなどして単位を修得する必要があります。再履修費用を支払う必要はありません。 ③ 再履修時の最高成績はB（良）となります。 		

3. 出席の認定

単位認定に必要な出席率は、科目ごとに80%以上です。

出席確認	<ol style="list-style-type: none"> ① 出席確認は、着席状況の目視や IPUT LMS 等を通して行います。教員の指示に従ってください。 ② 15分以上の遅刻・早退はその授業を欠席とみなします。 ③ 遅刻・早退は、科目ごとに通算3回で1回の欠席とみなします。 ④ 皆勤賞および精勤賞は卒業式で授与します。よって式欠席者には授与しません。ただし、公欠の場合は後日授与します。 皆勤賞………無欠席で、遅刻・早退の合計回数が2回までの学生 精勤賞………欠席6回と遅刻・早退の合計回数が2回までの学生
------	---

4. 課題認定の要件

単位認定に必要な課題認定率は80%以上です。課題認定率とは、課題を求められた回数に対し、認定を受けた課題数の比率をいいます。

提出された課題は科目担当教員によって認定されることにより、正式に提出があったものとして扱います。以下の基準を満たしていない場合、提出しても、認定されません。

- ① 課題が期限までに提出されていること
- ② 内容が課題の出題意図に対し、的確な内容であると認められること